

146 ²⁰¹Tl負荷心筋シンチグラム (Ex-Tl)に於けるRibose投与の再分布に及ぼす影響

鎌田達也、永井義一、笠井龍太郎、宮下岳夫、池部伸彦、小林泰彦、伊吹山千晴 (東京医科大学2内)
藤田賢二、白岩啓志、梅田淳一 (同放射線科)

重症冠動脈病変領域の心筋Viabilityを評価する為に、Ex-Tlの再分布像に追加し24時間後像の撮像やTl再静注法が試みられているが、今回Ribose併用投与の再分布に及ぼす影響を検討した。虚血性心疾患々々5例に2週間以内に2度Ex-Tlを施行し、負荷直後像を撮像後、一方はRibose3.3mg/kg/minを、他方は同量の生食を30分かけて静注し3時間後に再分布像を撮像し比較検討した。5例中2例は再分布の促進を認めた。また、Ribose投与後の血糖値の変動は軽微であった。Ribose併用投与Ex-Tlは拘束時間の延長や被曝量の増加を伴わずに再分布を促進する事が示唆された。

147 急性心筋梗塞 (AMI)再灌流療法後の心筋viabilityの評価-DBcAMP負荷²⁰¹Tl心筋SPECTによる検討- 陳 若富 (国立大阪病院循環器科)

AMI再灌流療法後の梗塞部心筋に残存するviabilityの有無について、DBcAMP負荷²⁰¹Tl心筋SPECTを用いて検討した。対象は発症早期に良好に再灌流の得られた1枝病変AMI患者17例で、術後早期にEARLY REST(ER), DBcAMP負荷(DB), 慢性期にLATE REST(LR)を撮像。%Defect Score(%DS)による定量的評価を行い、LVGの壁運動所見と比較検討した。DB及びLRのERに対する%DSの改善率を示すRedistribution Score(RS)とViability Score(VS), 壁運動の改善を示す△Wall motion Score(△WS)とRSの間には有意な正の相関関係を認めた。術後早期DBcAMP負荷でTl uptakeが改善した領域には、慢性期Tl uptake及び壁運動の改善が認められたことから、DBcAMPは梗塞部に残存するviableな心筋を賦活化させうることが示唆された。

148 ドブタミン負荷タリウム心筋シンチグラフィ 今井嘉門、荒木康史、斎藤 順、小沢友紀雄、八杉忠男 (日大、二内)、萩原和男、鎌田力三郎 (日大、放)

十分な運動が不可能な患者での冠動脈疾患の診断に、ジピリダモール負荷が行われているが、気管攣縮を誘発するため呼吸器疾患患者では禁忌である。このような患者でも施行できるドブタミン(DOB)負荷が注目されている。虚血性心疾患患者78症例で、DOB 10μg/kg/minより開始し、3分ごとに10μg/kg/minずつ増加し、最大投与量40μg/kg/min3分間終了或は胸痛、心電図変化出現時にタリウムを投与し、直後及び3時間後像を撮像した。DOB負荷の合併症は、動悸: 85%と高頻度であったが、重大なものは認めなかった。冠動脈造影を施行した44症例で検討した有病正診率、無病正診率は各々91%, 70%であった。運動困難な患者の虚血性心疾患の診断法としてDOB負荷心筋シンチグラフィは安全で、有用である。

149 労作誘発性心筋虚血におけるMgの急性効果についての検討

井上一也 (国立明石 循), 前田和美 (神大 医技)
労作誘発性心筋虚血におけるMg急性投与の効果について検討した。

労作性狭心症18例に対し経静脈性にMgSO₄投与前後で²⁰¹Tl運動負荷心筋シンチを施行、心電図上STが1mm低下するまでの時間、心拍数、Double products、及び左室のDefect Score, lung uptake scoreを算出した。

Mg投与前後で1)STが1mm低下するまでの時間が有意に延長した。Double products, 心拍数は有意差を認めなかった。2) Defect Score, lung uptake scoreが有意に改善を認めた。

労作性狭心症に対しMgを経静脈的に投与することにより、心筋虚血出現閾値の上昇及び、心筋虚血部位の改善を示し、その有用性が認められた。